

結核予防週間啓発活動

令和3年9月24日～30日



琉球新報・沖縄タイムス新聞紙上を通して啓発活動

結核理解深めて 婦人連絡協PR
ポスターなど配布

県結核予防週間が始まった24日、県結核予防婦人連絡協議会（與那覇信子会長）がPRのためのセレモニーを那覇市の県婦人連合会館で開いた。期間は30日まで。結核に関する知識を深めるためにポスターやパンフレットを市町村などに配布し、掲示などを通して県民に周知する。

協議会によると、県内の結核の新規患者は186人で、3年ぶりに増加した。與那覇会長は「新型コロナウイルス感染症を恐れ、受診を自粛するほか、健診の一時的中の影響で患者発見の遅れが懸念されている」と指摘。「早期受診や診断遅れによる重症化の予防、結核の正しい知識の普及に努めたい」とした。

結核予防週間の17日には県結核予防複十字シール募金運動の一環で、琉球銀行が協議会に20万円を寄付した。

結核症状に注意を 早期受診呼び掛け 予防週間始まる

県結核予防婦人連絡協議会の與那覇信子会長＝写真中央＝らは24日、結核予防週間の初日に合わせて那覇市大道の県婦人連合会事務所で会見し、咳（せき）が2週間以上続くなどの症状がある場合、県が指定している医療機関を受診するよう呼び掛けた。

予防週間は30日までで、

核の新規患者は186人で、3年ぶりに増加した。全国的に患者の高齢化が進んでおり、県の新規患者のうち60歳以上が約7割を占めている。

また結核や肺炎患のない社会を目指すための事業資金を募る「複十字シール運動」も8月1日から始まっている。募金は結核予防の広報や、開発途上国の結核対策、人材育成などに充てる予定。同運動は12月31日まで。

結核に関する正しい知識の普及などを目指す。與那覇会長は「今でも結核で亡くなる方はいる。症状がある場合、早めに検査をしてほしい」と話した。

県によると、2020年の結

令和3年度 結核予防週間啓発活動



10/27. 新型コロナウイルスの感染者数に減少が見られはじめた 10 月下旬、沖縄県結核予防婦人連絡協議会の與那覇会長始め 3 名が沖縄県庁を訪問し、保健医療部大城部長に複十字シール運動への協力を依頼しました。当日は結核予防会評議員会の森会長と小林事業部長も出席し、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が結核対策に及ぼす影響や官民が協力して進める結核予防活動の重要性について意見交換をしました。

写真左より、県ワクチン接種等戦略課城間課長、県結婦人会與那覇会長、県保健医療部大城部長、結核予防会評議員会森会長、本部小林事業部長、県糸数医療技監兼保健衛生統括監、県結婦人会波平副会長

| | |
|---|--|
| <p>結核予防に20万円寄付 琉銀、ユイマール助成会</p> <p>琉球銀行（川上康頭取）と同行の職員らで基金を積み立てる「りゅうぎんユイマール助成会」は17日、那覇市大道の県婦人連合会会館で、結核や肺疾患のない社会を目指すための事業資金を募る「複十字シール募</p> |  <p>金」に20万円を寄付した＝写真（同協議会提供）。</p> |
|---|--|

令和3年9月17日 沖縄県結核予防婦人連絡協議会